

自分もみんなも 明るく うれしく よかったね

2月号

新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html> No.257

メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp 2021（令和3）年2月26日

伝統を引き継ぐ

今年度の教育活動もあと1ヶ月弱となりました。コロナ禍においても、何とかここまで教育活動を続けてこられたことに喜びを感じています。ご理解、ご協力いただきました保護者・地域みなさまに感謝しています。もうすぐ6年生は卒業です。学校のリーダーが6年生から5年生へ引き継がれます。他学年も1つ学年が上がります。

先日、6年生から5年生に引き継ぐマーチングバンド移杖式が行われました。マーチングバンドは、開校以来30年にわたって引き継がれてきた新井中央小学校の伝統的教育活動です。移杖式の中でも「伝統」という言葉が子どもたちから聞かれましたし、私も「伝統」という言葉を使って子どもたちに話をしました。「伝統」という言葉を使うとき、私は、いつも何年か前に観たあるテレビ番組を思い出します。番組名は忘れてしまいましたが、心に残った内容をメモしておいたので、紹介します。富山の伝統工芸「井波彫刻」の職人の話です。伝統的技法を用いて新しい作品作りに挑戦している職人のドキュメンタリーでした。その作品の斬新さと美しさに驚きました。特にエレキギターにほどこした彫刻はすばらしく、一流ミュージシャンからも注文が入るほどでした。その中で一人の職人が語った言葉。「井波彫刻は、作品の伝承じゃないんだ。技術の伝承なんだ。」その言葉に私は、感銘を受けました。この職人の言葉こそが、「伝統を引き継ぐ」ということなのではないかと感じました。

今年の5年生きぼうマーチングバンドは、今までとは大きく違う点がありました。それは、金管楽器を吹く児童は全員が初めてということです。課外活動が終了し、金管楽器経験者がいない条件での初めての放課後活動マーチングバンドへの挑戦の年でした。今までと同じやり方では、子どもたちに必要以上の負担を強いてしまいます。旋律をリードする楽器として鍵盤ハーモニカ、マーチングキーボードを入れ、楽器編成を工夫しました。個々の楽器選択についても、十分時間をかけてていねいに進めました。移杖式で披露する曲も基本練習の成果を発表するという目標設定で、例年のように校歌ではなく基本練習曲「きらきら星」としました。コロナ対応で楽器の共用ができない中、6年生が熱心に教えてくれました。休み時間も自主的に練習する5年生の姿がありました。当日の演奏、演技。私の素人目にも基本がしっかりできていることが分かりました。特に金管楽器の音がしっかり出て、音がとれていることに感心し、とても嬉しく思いました。式の最後、校長のあいさつの中で私は6年生には「感染防止のため、年度初めからしばらくは練習さえもできない状態からのスタートでした。でも、そんな中でも、くじけず、その時々でできることで活動を進めてきたみなさんを私は誇りに思います。」と伝えました。5年生には、「伝統、プラス、きぼう学年らしさを創り出してってください。」と期待の気持ちを伝えました。後日、子どもたちに楽器の基礎指導をしてくださった外部講師の方と話す機会がありました。「中央小の子どもは、指導者の話をしっかり聞いて、一生懸命よくがんばる。」と誉めていただきました。心の伝統もしっかり引き継がれていることを感じ、とても嬉しく思いました。

伝統を引き継ぎながら、その子らしさ、その学年らしさを大切に成長していったほしいと私は、願っています。

校長 加藤 晃